

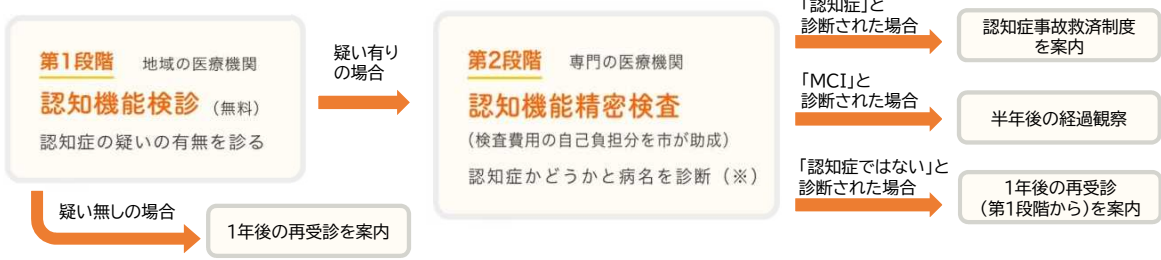
神戸市における認知症に関する取り組みについて(2024/10/18)

神戸市医師会副会長 久次米 健市

認知症神戸モデルの実施実績と登録状況

認知症神戸モデル（認知症診断助成制度）

※令和6年3月時点



認知機能検診（第1段階）

受診者数…77,262人
結果内訳)
疑い有り…19,283人（25.0%）
疑い無し…57,979人（75.0%）

実施医療機関数：459（開始時:326）

認知機能精密検査（第2段階）

受診者数…16,286人
結果内訳)
認知症…9,246人（56.8%）
MCI…… 4,678人（28.7%）
認知症でない…2,362人（14.5%）

実施医療機関数：61（開始時:53）

※令和6年4月より「認知症新薬にも対応した神戸モデル」がスタート

神戸市の認知症啓発への協力

- 神戸モデルを受診した方に「人生会議（ACP）」の啓発
- 軽度認知症（MCI）と診断された方への情報提供
- フレイル改善通所サービス、健康づくり（運動・食事・生活習慣病等）等

大切なことだから、みんなと話したい
私のこれから

人生会議のすすめ
人生会議とは、自分自身が大切にしていること、どのように生活し、どのような治療やケアを受けたいかについて、信頼する人たちと話し合っておくことです。

詳しくは、**認知症啓発センター**のパンフレットをご覧ください。

人生会議（ACP）の啓発

認知症神戸モデル 診断助成制度 作成中（案）
軽度認知障害（MCI）
と診断されたご本人、ご家族、支援者の方へ

01 軽度認知障害（MCI）とは？
軽度認知障害（MCI）とは、正常加齢と認知症の間の中間的な状態のことです。本人や家族から認知機能が低下したとの訴え（その多くは「もの忘れ」です）があるものの、日常生活に支障を必要とするほどの状態ではありません。軽度認知障害（MCI）は認知症ではありません。

軽度認知障害（MCI）に対して明らかに効果のある治療法は現在ありません。しかし、中年期の糖尿病や高血圧、高コレステロール血症は認知症の危険因子とされていますので、これらの生活習慣病をきちんとコントロールすることは認知症の予防につながると思われます。

また、定期的な運動や積極的な社会参加、余暇活動などが認知症予防に有効であると考えられています。かかりつけの医療機関を定期的に受診し、必要な時や支援を受けられるようにしておくことも大切です。

軽度認知障害（MCI）と診断されても落ち込むことはありません。6か月〜1年ごとに再受診し、今の自分の物忘れの状態を確認してください。いかに認知症になる時期を遅らせるかは、ご本人の気持ちと心がけが大切です。

認知症を予防することで受診を遅らせることが出来る時代になりました。年齢相応の物忘れと認知症とのグレーゾーンである軽度認知障害（MCI）の段階での発見が重要です。（早期発見には専門的な検査が必要です。）

次のページから、軽度認知障害（MCI）と診断された方への、生活のアドバイスや、利用できるサービスなどを掲載しています。無料の「認知症ケアパス」とあわせてご覧ください。

MCIの方向け情報提供

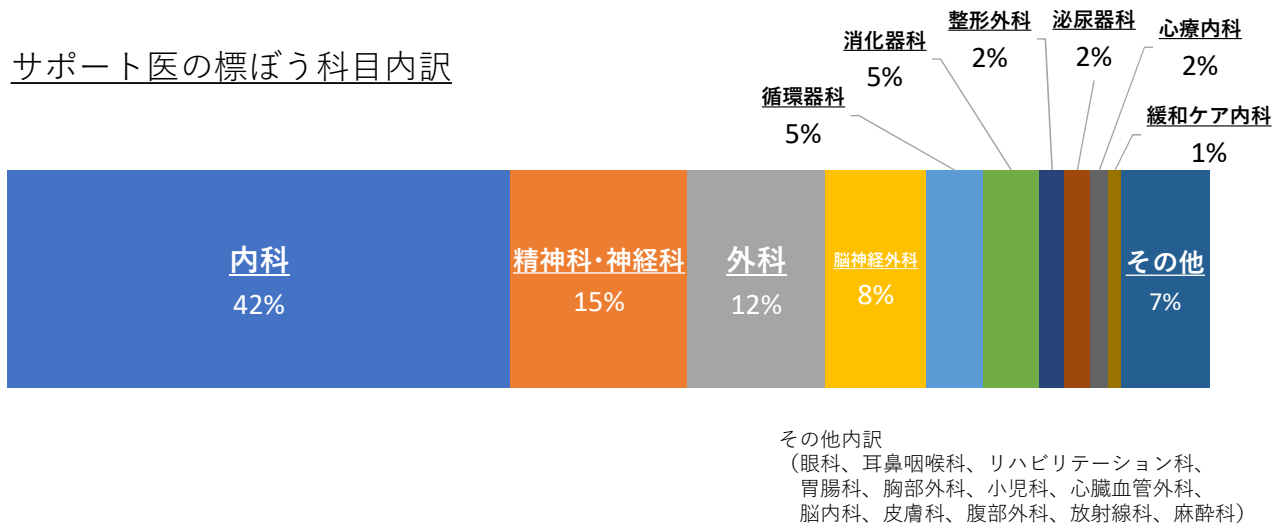
神戸市内の認知症サポート医の取り組み

※令和6年7月時点

- 神戸市内の認知症サポート医養成状況：236人

※うち神戸市医師会員（210人）

サポート医の標ぼう科目内訳



神戸市内の認知症サポート医の取り組み

- ① 認知症初期集中支援事業 (こうべオレンジチーム) への協力**
サポート医としてチーム員会議への参加、アドバイスを行う
- ② かかりつけ医認知症対応力向上研修会の開催**
一般内科医向けに認知症に関する研修会を実施
- ③ 認知症サポート医フォローアップ研修の実施**
神戸市内の認知症サポート医のスキルアップ、認知症に関する情報のアップデート等を目的とした研修会を毎年開催
- ④ 認知症サポート医連絡会の立ち上げ**
神戸地区の認知症サポート医に呼びかけ、連絡会を立ち上げる
最新の医療知識や知見の共有を目指す
- ⑤ 「認知症の人と家族の会」 つどいへの協力**
「認知症の人と家族の会」の交流の場に医師の派遣し、認知症の現状や医学的知識などを分かりやすく解説する取り組みを行っている